

科 目 名
教育原論 The Principal Theory of Education

1年 前期 2単位 選択

柿 塚 純 男

概 要

教育は、未来に生きる人間を育成することを通じて、未来を創造する最も基本的な人間の営みである（臨教審第2次答申）。この意味において、教育に携わる者は、子どもの未来、人間の未来、郷土の未来、ひいては日本の未来、世界の未来に対して、常に鋭敏な感覚と広い視野を持つ人間でなければならない。講義参加者一人一人が、この講義を通じて、より確固たる教育理念（哲学）を培い、身の回りに山積している教育課題の解決に、それぞれの立場で行動することのできる力を養う。

目 標

何故、教育改革が必要であったのか、その背景（課題、現況等）を、データを基に分析し、21世紀前半の教育の在り方を、貝原益軒公の教育論、臨時教育審議会（第1、2、3、4次）答申、教育基本法の理念から考え、教育に関する歴史、思想について理解を深める。

授業計画

テ ー マ	内 容
(1) 日本教育史、特に貝原益軒公の教育論	・江戸、明治、大正、昭和史から人物、関係資料を学ぶ。教育の礎、学びの5つの教え、知と行について学ぶ。
(2) 儒学の教えが生きている〈臨教審答申1次、2次〉から見える21世紀の学校教育論	・子どもたちの将来にどんな可能性、危険、問題が待ち受けているか。これらの問題に挑戦していくに必要な能力とは？ 未来が必要とする能力・資質を磨き、向上させるためどうすればよいのか。
(3) 家庭、社会教育論〈臨教審答申3次、4次〉	・学校、特に家庭、地域の教育論に絞り学習。更にはその連携の必要性。学校支援地域本部事業についても学習
(4) 教育基本法の教育理念、目標から見える教育論	・国会での質問及び答弁を通してそれぞれの立場でのディベートを実施
(5) 学校論	・学校史、現学校における教育の成果と課題
(6) 教科書論	・尋常小学校で使用された教科書からのメッセージ、未来の教科書論。教科書は日本国教育の歴史そのもの。
(7) 特別支援教育論	・LD、ADHD 等の子どもの教育について国の動向と県の方角及び課題
(8) 人権教育概論	・熊本県同和教育基本方針から熊本県人権教育基本方針、この中に受け継がれている未来展望を期待する人権教育
(9) 教育内容とカリキュラム	・校長時代の実践から
(10) 子どもの問題、特にいじめ裁判	・実体験を通して（裁判資料あり）
(11) 生徒指導・特別活動	・具体的事例研究
(12) プラトンの「国家論」から見た現代子ども世相	・教育の「不易」と「流行」について 何故、今、古代ギリシアの教えが必要なのか。「自由と平等がいきすぎると……」
(13) 教育改革の流れで論議された学力論（教師論）	・教師像と信念（哲学）。その信念の柔軟性（益軒公の博く学ぶとは？）
(14) 保護者が期待する学校論	・モンスターペアレントから見える学校教育への期待。学校評価（自己評価、学校関係者評価、第三者評価）
(15) 定期試験	

授業方法

授業は、講義を中心に進め、必要に応じてディベート等で展開予定。教師論の使命感の確立は、マスコミ関係者で講義する予定。

学習到達度の評価

- (1) 適宜、小レポートを課し、学習の到達度を評価する。
- (2) 授業中のフェイス トウ フェイス、並びに、学びの姿勢で評価。

評価方法

皆出席を前提に、授業中のレポート並びに試験で総合評価。

教 材

参考書は負担にならない範囲で適宜紹介・購入。出来る限りプリントを用意する。